

手柄山温室植物園だより
シリーズ：姫路市に見られる身近な植物

18. カナムグラ（クワ科カラハナソウ属）

Humulus japonicus Sieb. et Zucc.

2014年10月

人里近くの道ばたや河川敷などに普通に生育するつる性の一年草です。茎や葉柄に下向きの刺毛があり、茎は数m以上にも伸び、他の植物や電柱、フェンスなどに絡みつきます。富栄養化した土壌を好み、河川敷などでときとして大群落が観察されます。葉は掌状に5~7深裂し、長さ5~12cm、基部は心形で縁に低い鋸歯があり、表面は粗い毛があつてざらつきます。花は9~10月に開き、雌雄異株で、雄花は円錐花序にまばらにつき、花被は5全裂、雄ずいは5本です。雌花は数個~十数個の苞片からなる卵円形の球果様です。分布は北海道、本州、四国、九州、沖縄、台湾、中国で、アメリカでは野生化しています。ヨモギなどと同様、花粉がアレルギーになるといわれ、秋の花粉症の原因になっているようです。

類縁種にビールの原料であるホップ (*Humulus lupulus* L. var *lupulus*) があります。ヨーロッパ原産の多年草で、セイヨウカラハナソウともよばれます。北海道や東北地方で栽培され、利用は球果を用い、苦みや香り、また、雑菌の繁殖を抑える働きがあります。



カナムグラ



カナムグラの雌花